

平成26年度当初予算に対する各会派・無所属の討論

平成26年度当初予算に対する
各会派・無所属の討論

平成26年度当初予算について、予算特別委員会での審査後、3月28日の本会議で各会派代表者及び無所属議員による討論が行われました。

ここでは、当初予算に対する主な討論内容についてお知らせします。
◇討論の詳しい内容については、5月下旬に発行予定の会議録をご覧ください。

なお、会議録は、両庁舎情報公開コーナー、全図書館、市ホームページでご覧いただけます。

日本共産党西東京市議団 藤岡 智明

反対

庁舎統合方針、小学校統廃合は撤回を！

庁舎統合方針と整備基金設置は撤回すべきだ。市民意見調査の結果では市民は統合を直接求めている。優先すべきは施設の延命化や長寿命化を十分検討し、市民の暮らしを応援することである。小学校の統廃合については、保護者の合意が得られていない。今後実施の移動希望調査結果で指定校以外が多数になるときの責任と対策が不明確だ。反対である。行財政改革案では、来年度以降、各保険料や受益者負担の見直しが検討されるが、負担増は認められない。公設公営認可保育園や特別養護老人ホームの増設や学校図書館司書1校1名配置、特別教室・体育館・給食室の空調設備設置ほか小中学校教育環境拡充など切実な市民要望が予算化されていない。

自由民主党西東京市議団 保谷 なおみ

賛成

理想のまち実現に向けて前進せよ！

第2次総合計画初年度の予算である。財政調整基金残高が15億円弱と依然厳しい状況だが、景況感の腰折れを防ぐため、市内消費喚起事業を実施すること、認知症及びねたきり高齢者等紙おむつ給付事業を入院患者も広く利用できるようにするなど、財政的に厳しい中、市民ニーズに精いっぱい応えようとしているのは評価する。ひばりが丘駅北口広場整備も、用地取得率が87%と、いよいよゴールが見えてきた。一刻も早い駅北口バリアフリー化と広場完成を強く望む。庁舎統合については、最少のコストで最大の効果を上げることを最優先に検討を行うこと、さらに、行革を着実に実行し、理想のまち実現に向けて、一步でも前進することを願う。

生活者ネットワーク 大友 かく子

反対

子どものため持続可能な行政運営を

国・都の補助金の活用や所管課の創意工夫により支出を抑制しつつ、学童クラブ増設、虐待防止支援員配置、生ごみ直接回収、小型家電資源化の推進に伴い障がいのある人への仕事の創出等、多くの事業を高く評価する。一方、泉小廃止の対応、平成26年12月執行予定の市議会議員選挙を踏まえた特別職報酬等審議会開催、市民協働推進センター運営委託事業者の選定、教育支援システム構築に子どもがかかわる施設・機関が情報共有し実施すること等を求めた総括質疑で整合性がとれていないと言わざるを得ない答弁が行われた。過去最大の予算規模は前年度と同様に基金の追加取り崩しによるもので、持続可能な行財政運営に不安要因と考え、反対する。

西東京市議会公明党 小幡 勝己

賛成

市民の声に耳を傾け行革を推進せよ！

本予算は、公共施設の耐震化、地域コミュニティ推進事業の実施、紙おむつ給付事業の見直し、臨時福祉給付金、虐待防止支援員の配置、放課後子供教室の拡充、学校安全体制の推進、待機児対策、学童クラブの充実、ひきこもり・ニート対策の充実、ひばりが丘駅周辺のまちづくり、地区計画関連周辺道路の整備、雨水、溢水対策、防災行政無線の改善、災害要援護者対策の推進、教育環境の整備等々、市民生活に直結する多くの予算が含まれている。しかしながら、財政の硬直化が進み、さらなる4次行財政改革の推進、公共施設の適正化、庁舎統合の課題、学校の統廃合など課題は多く、これまで以上に市民の声に耳を傾けた市政運営を求め、賛成とする。

無所属 納田 さおり

反対

財政の崖転落寸前！西東京市最大の危機

市最大のバブル予算698億円を実現しているのは貴重な基金の取り崩しと赤字補てんの借金、統一感の無い散漫な事業選択だ。これにより、西東京市は一步間違えば財政の崖を転落する危機的状況に陥った。市議選を明らかに意識した特定団体配慮の予算付けやばらまきが行われている一方で、犠牲となっているのは、廃校となる泉小や、廃止となる西原児童館・学童クラブの子ども達だ。また行革遂行も名ばかりで、市最大の行革である市庁舎統合方針も先送りし、合併後に積み重ねてきた16億円超の超過コストも放置された。将来的な見通しの上でも、市民に対する信義則においても到底予算に賛成する事は出来ない壊滅寸前の状況だ。

西東京改革フォーラム 坂井 かずひこ

賛成

総合計画を柱に行財政改革の推進を望む

早期に公契約条例を制定すること、図書館へ電子書籍の購入を推進すること、乳幼児健診等の会場を増やすこと、ごみ減量推進課等の現場職員と民間委託業者のバランスを考えること、市内の運動場等施設を整備すること、コミュニティバスの今後の検討課題の提案、公共施設の適正規模・適正配置の丁寧な対応、放課後子供教室事業と児童館・学童保育・学校運協との関係、DV対策条例の制定、子ども子育て新制度の動向を注視しながら適切な体制整備とともに、市内保育施設・保護者への丁寧な情報提供を行っていただくこと、0歳児保育の一時的な中止についての丁寧な周知と対応、がん検診のさらなる精度管理等、今後の課題を示し賛成討論とする。

無所属 桐山 ひとみ

反対

市民益に当たらない場当たりの予算反対

歳入歳出総額は698億500万円。本年度は約20億円の財政調整基金を取り崩し、収支の均衡をはかる一方で予算は最大規模となった。丸山市政になって1年、事業のおくれや後退しているものが目立つ。3・4・21号線ひばりが丘駅北口街路整備は、本年度末で事業認可満了、事業のおくれから5年も延伸し約43億円の増額及び100億円規模の事業に膨らんだ。教育では、泉小学校の廃校を急ぎ保護者の理解を得られないまま強引に進める。市民感覚から一番優先度の低い70億の建設費を想定した庁舎の整備基金に1億円と厳しい財政状況の中での無計画きわまりない場当たりの予算には多数指摘し反対。健康都市を目指し、市民の健康施策を充実すべきである。

みんなの党西東京 森田 いさお

賛成

子どもの未来を守るために！闘う改革！

評価する点として、①地域コミュニティ復活のために自治会・町内会等活性化補助金を創設した点②待機児童対策として家庭的保育者、私立認可保育園等を整備した点③学童クラブの新規開設及び設備改修を行う点④雨水溢水対策を推進する点。改善を求めるとして、①ひばりが丘駅北口の3・4・21号線整備事業が、予定額を約43億円超過し、計画も5年間延伸している点。進捗管理に大きな課題がある。②庁舎統合の方針決定を1年間延伸した点。準備不足の印象は否めない。③小規模小学校統廃合における交流事業は、泉小と住吉小だけでなく通学区域の観点から保谷小、谷戸第二小も含めて検討すべき。以上を総合的に評価して、賛成とする。